

令和元年ホヤ類調査結果速報 No. 3

令和元年 9月 27日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

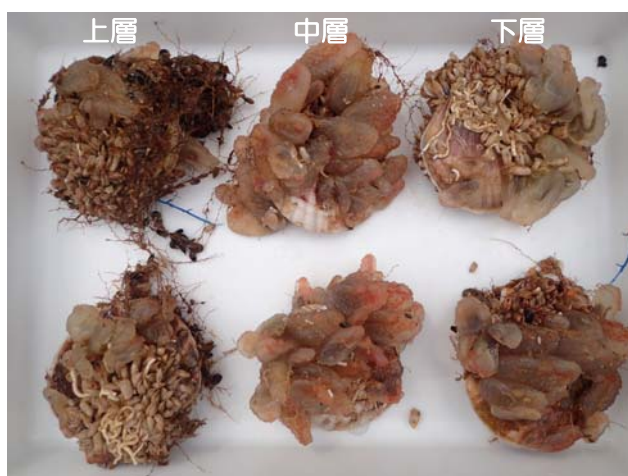
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

9月18日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着個体数は減少しました（図1、図3上）。
- 付着個体数は、ホタテガイ1枚あたり43.3個体で（表1）、過去5ヶ年の平均とほぼ同じです（図3）。
- 5mm未満の微小な個体の占める割合は低くなり、耳吊りホタテガイに新たに付着する個体は少なくなっていると考えられます（図2）。
- ヨーロッパザラボヤは25mm以上で成熟個体が増加します。25mm以上の個体の割合は約3割を占めていました（図2）。
- 「個体数が減少に転じ、新たに付着する個体が少なくなっていること」および「今後、耳吊りホタテガイ上で繁殖個体の増加が懸念されること」から、状況に応じて、貝洗い等の対応を進めて下さい。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 令和元年9月18日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

※この調査は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：9月18日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました（図1、表1）。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり43.3個体、平均サイズは19.3mmでした。前回の調査（110.9個体）から、個体数は大きく減少しました（図3上）。平均サイズは過去5ヶ年の平均（16.2mm）を上回っています（図2-1）。成熟の目安となる25mm以上の個体の割合は約3割で、今後成熟個体の割合が高くなると考えられます。また、来月以降、付着個体の成長に伴い、付着重量は急激に増加すると見込まれます（図3下）。出荷時期（12～4月）にホタテガイ1枚あたりヨーロッパザラボヤが10個体残っているだけでも、ホタテガイを上回る重量となり、成長にも悪影響が出ます。各地区の状況に応じて、貝洗い等の対応を進めてください。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：令和元年9月18日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	96.9g	103.2g	95.0g	98.3g
ヨーロッパザラボヤ	17.0g	54.0g	42.8g	37.9g
その他	80.0g	49.2g	52.2g	60.4g
ヨーロッパザラボヤ個体数	25.8個体	53.4個体	50.8個体	43.3個体
平成30年9月(H30.9.20)の個体数	28.0個体	21.4個体	46.4個体	31.9個体
平成29年9月(H29.9.22)の個体数	5.6個体	36.0個体	88.0個体	43.2個体
平成28年9月(H28.9.15)の個体数	39.6個体	54.0個体	52.0個体	48.5個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：令和元年9月18日）

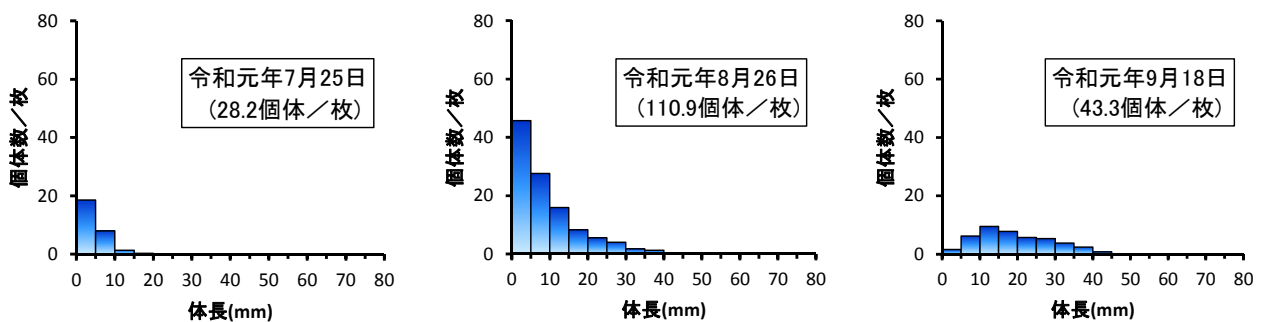
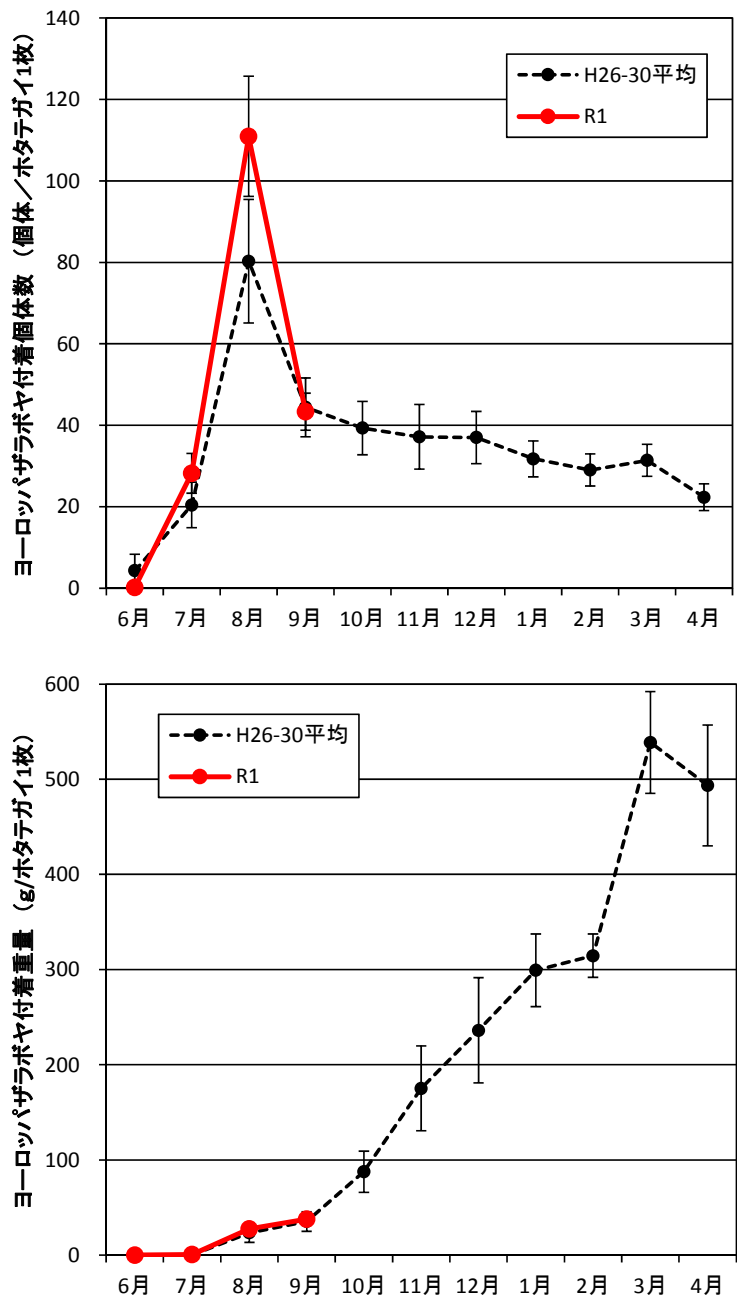


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去5ヶ年（H26～30年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が中心となっており、今年も同様のパターンです。付着重量は10月～翌1月にかけて急激に増加します。過去のデータから来月以降は、個体数は緩やかに減少し、重量は増加していくと予測されます。